



須賀小学校地域拠点施設基本計画書(仮)

概要版

宮代町・株式会社 東畑建築事務所

# 1. 基本計画の方針

## ■ 1-1. 計画の背景と目的

「第5次宮代町総合計画」(令和3年度～令和12年度、以下、5次総)において、「首都圏でいちばん人が輝く町」を掲げる宮代町では、5次総の前期実行計画に基づき、須賀小地域拠点施設の整備事業(※1)及び、その他関連する事業(※2)が策定されました。また、「第2期 公共施設マネジメント計画」(令和4年3月、以下、公共施設マネジメント計画)では、学校を中心とする「地域の中心施設」の考え方が示されており、あわせて、地域のコーディネーターの必要性と、エリア内のヒト・コト・モノをつなげて新たな活動を創出していく重要性にも触れられています。さらに、「宮代町立小中学校適正配置計画」(平成28年3月)(以下、適正配置計画)により、本町内の小中学校の再編計画が策定されましたが、町民の意見を反映して令和9年度以降に改めて再編について再検討されることとなりました。

以上の背景を踏まえて、「須賀小学校地域拠点施設基本構想」(令和5年6月)(以下、基本構想)が策定されました。この基本構想を指針とした、基本計画の目的は、施設に集約する具体的な機能や、地域拠点としての共有の仕方を検討するとともに、必要な諸室とその面積の検討を行い、本計画における合築の良さを探求することです。そして、今後の基本設計・実施設計に向けた基本的な方針をまとめることです。

## ■ 1-2. 計画の進め方

町内で複数の課を横断して結成されたプロジェクトチームのみなさんとともに、学校施設のあり方及び、地域コミュニティ施設の使われ方等を検討するため、住民ヒアリング、有識者シンポジウム、地域・教職員・議員ワークショップ、団体ヒアリングを行いました。町内外を問わず、小学校と地域施設が合築した時に、その場でどのような活動ができるか、どのような新しい活動ができそうかを、参加者のみなさんと広く話し合いました。

話し合いの場づくりは、コミュニティデザイナーを中心に、参加者がワクワクし、未来を見据えた意見交換ができるような仕掛けを考えながら進めていきました。

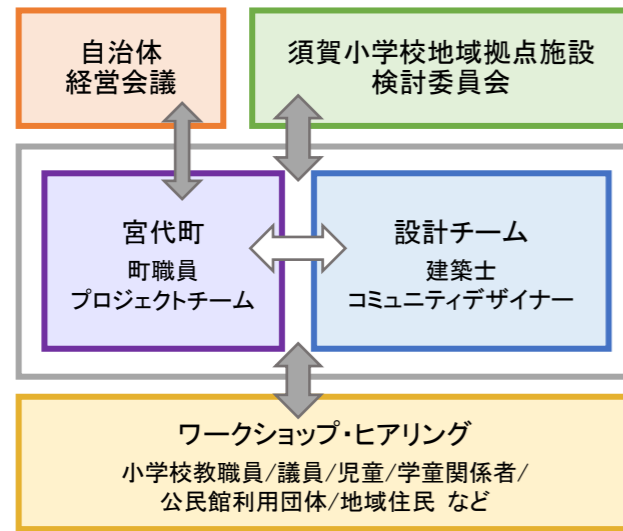


図1 体制図



写真2 住民ヒアリングの様子



写真3 住民ヒアリングの様子



写真4 住民ヒアリングの様子



写真1 住民ヒアリングの様子

表1 ヒアリング・ワークショップ実施概要(令和5年度)

内容	日時	参加者
住民ヒアリング	・8月9日(水)～8月11日(金) ・8月28日(月)～8月30日(水) ・9月10日(日)	計 30名
有識者 シンポジウム	・9月23日(土)	70名
地域 ワークショップ	第1回:10月21日(土) 第2回:11月11日(土) 第3回:12月16日(土)	60名 50名 未実施
教職員 ワークショップ	第1回:11月16日(木) 第2回:11月30日(木)	20名 16名
公民館利用団体 ヒアリング	第1回:12月13日(水) 第2回:12月14日(木)	7名 9名
学童ヒアリング	・12月17日(日)	未実施
児童ワークショップ	未定	未定
議員ワークショップ	第1回:10月5日(木) 第2回:10月19日(木)	4名 7名
先行事例視察	・10月25日(水)～26日(木)	13名
検討委員会 (基本構想より継続)	第4回:8月17日(木) 第5回:12月14日(木) 第6回:1月24日(水)	21名 未実施 未実施
検討委員事例視察	・1月24日(水)	未実施



写真5 シンポジウムの様子



写真5 議員ワークショップの様子



写真5 住民ヒアリングの様子



写真5 公民館利用団体ヒアリングの様子



写真6 地域ワークショップの様子

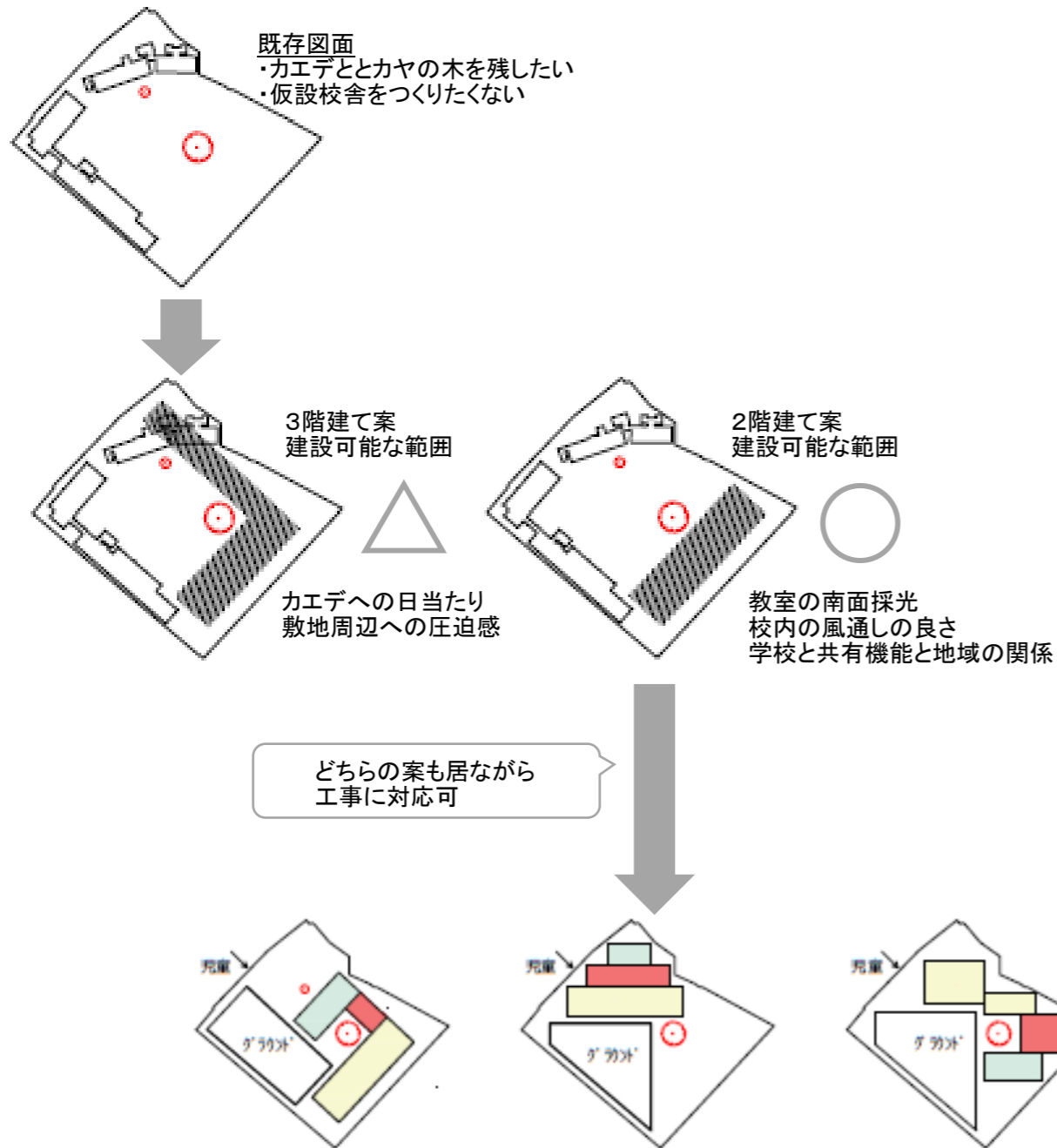


写真1 教職員ワークショップの様子



■ 2-3. 基本計画案の検討プロセス

(1) 敷地条件と与条件から考える



グラウンドの大きさ	○	○	○
教室の南面採光	×	△	◎
校内の風通しの良さ	△	△	○
児童の屋外動線	△	△	○

■ 小学校 ■ 地域施設 ■ 共有部

(2) 共有範囲を考える

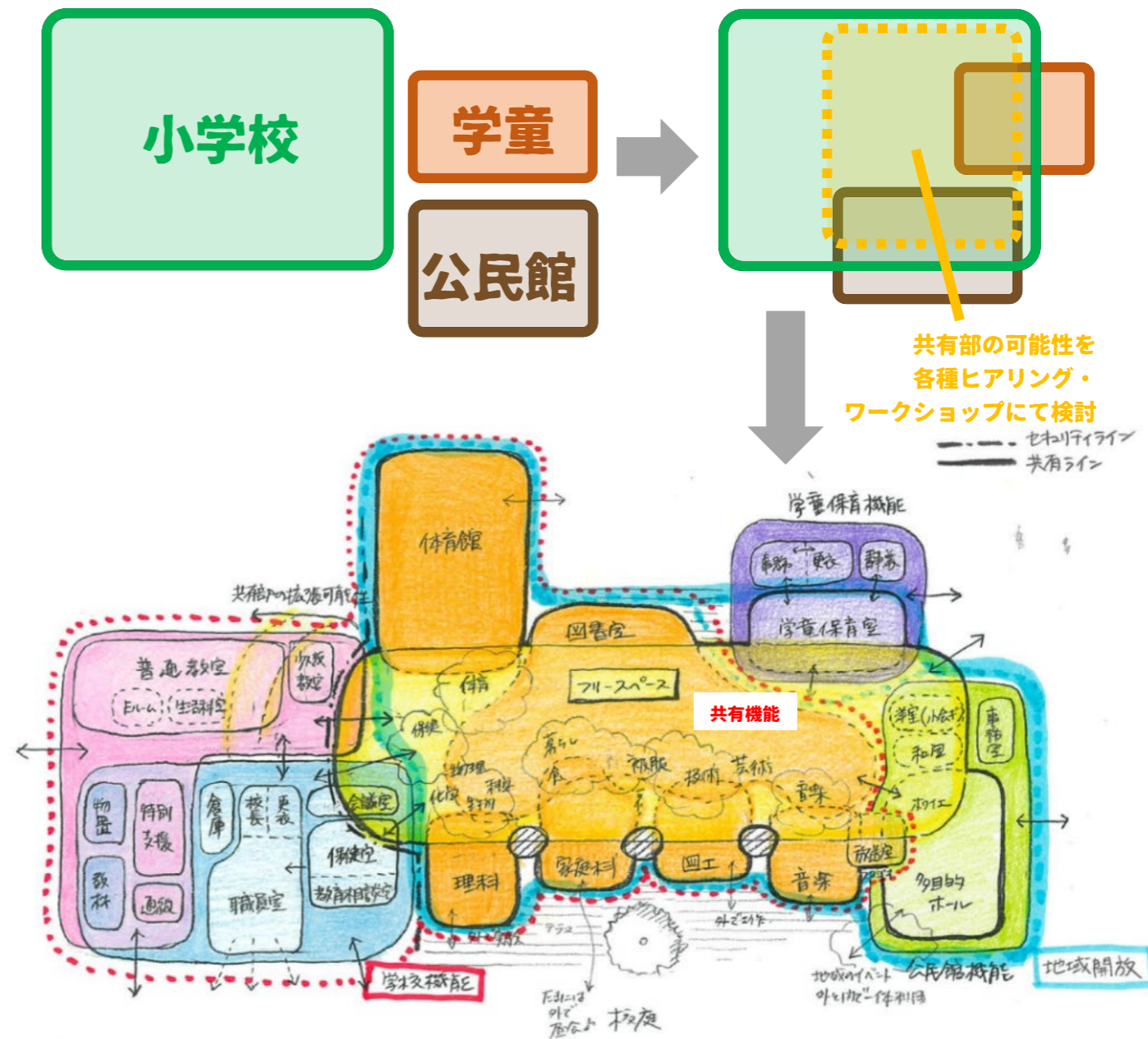
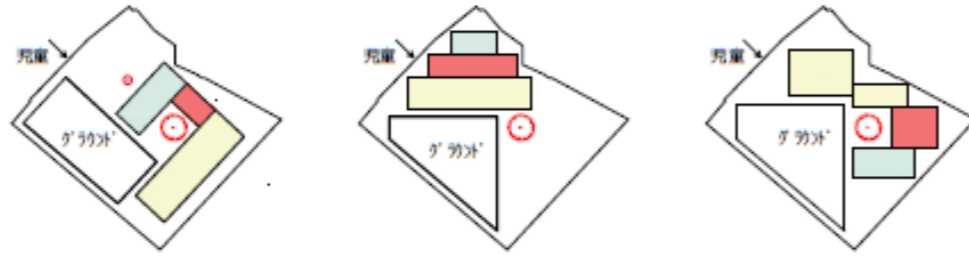


図5 目指すべき目指すべき地域拠点施設のイメージ「まちの中にある学校 地域とともにある学び舎」

- 特別教室と共有部を隣接させることで、地域と学校との交流が生まれやすく、使い方の多様性にも対応できる空間づくり。
- さらに、特別教室を屋外(デッキテラス等)とも隣接させることで、活動の幅を広げる。
- また、図書室の機能(静かだけでなく大丈夫なもの)を共有部に入れ込むことで、省スペースの実現だけでなく、特別教室での活動テーマに沿った図書の配架も可能に。
- 学童保育室の空き時間も活用できるようにするため、共用部と隣接する位置に配置。
- 安全管理に配慮し、各特別教室の準備室はクローズドな環境に。
- 多目的ホールや和洋室など、地域コミュニティ施設機能も、共用部と隣接する位置に配置。

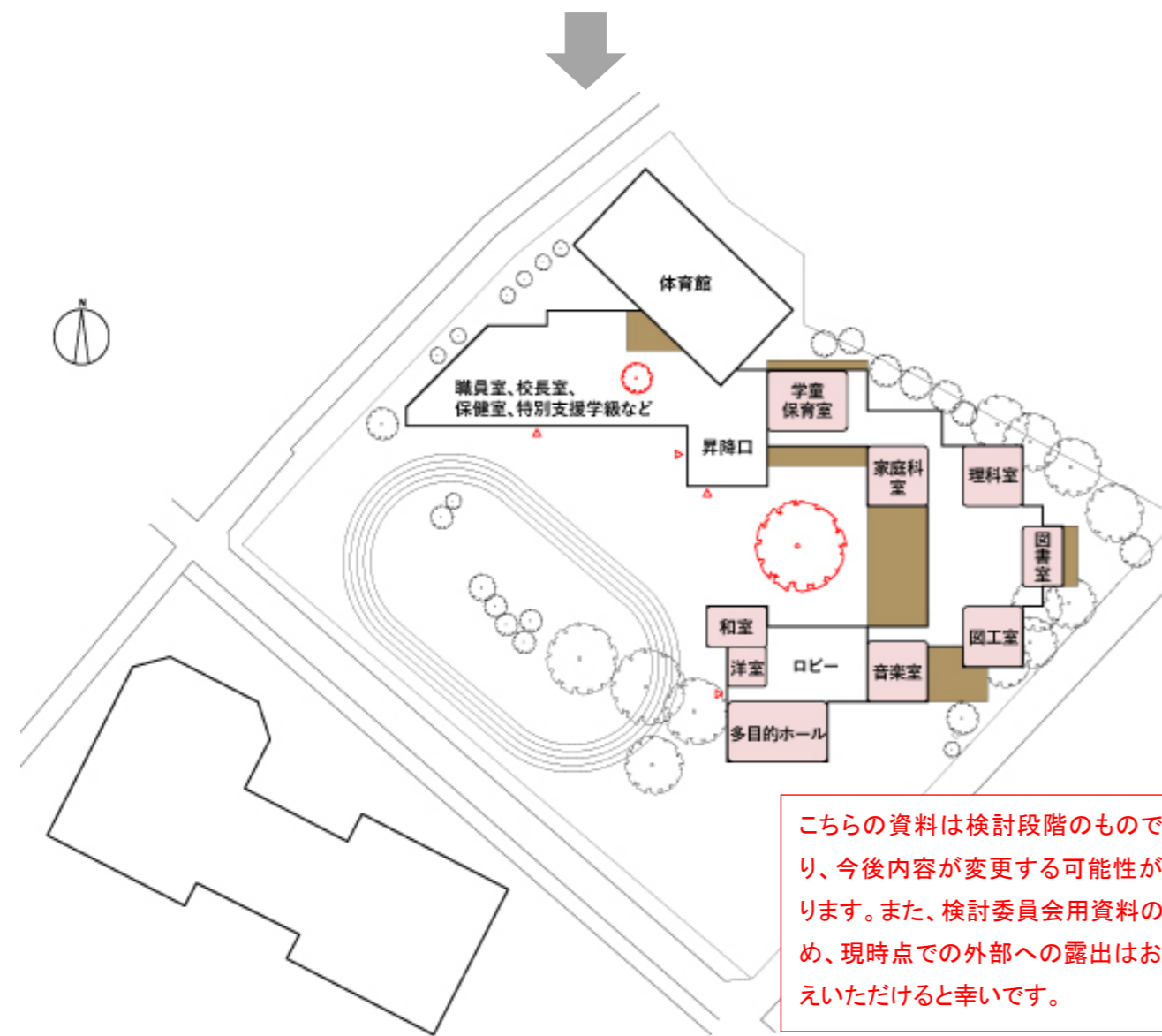
(3)基本計画案の決定



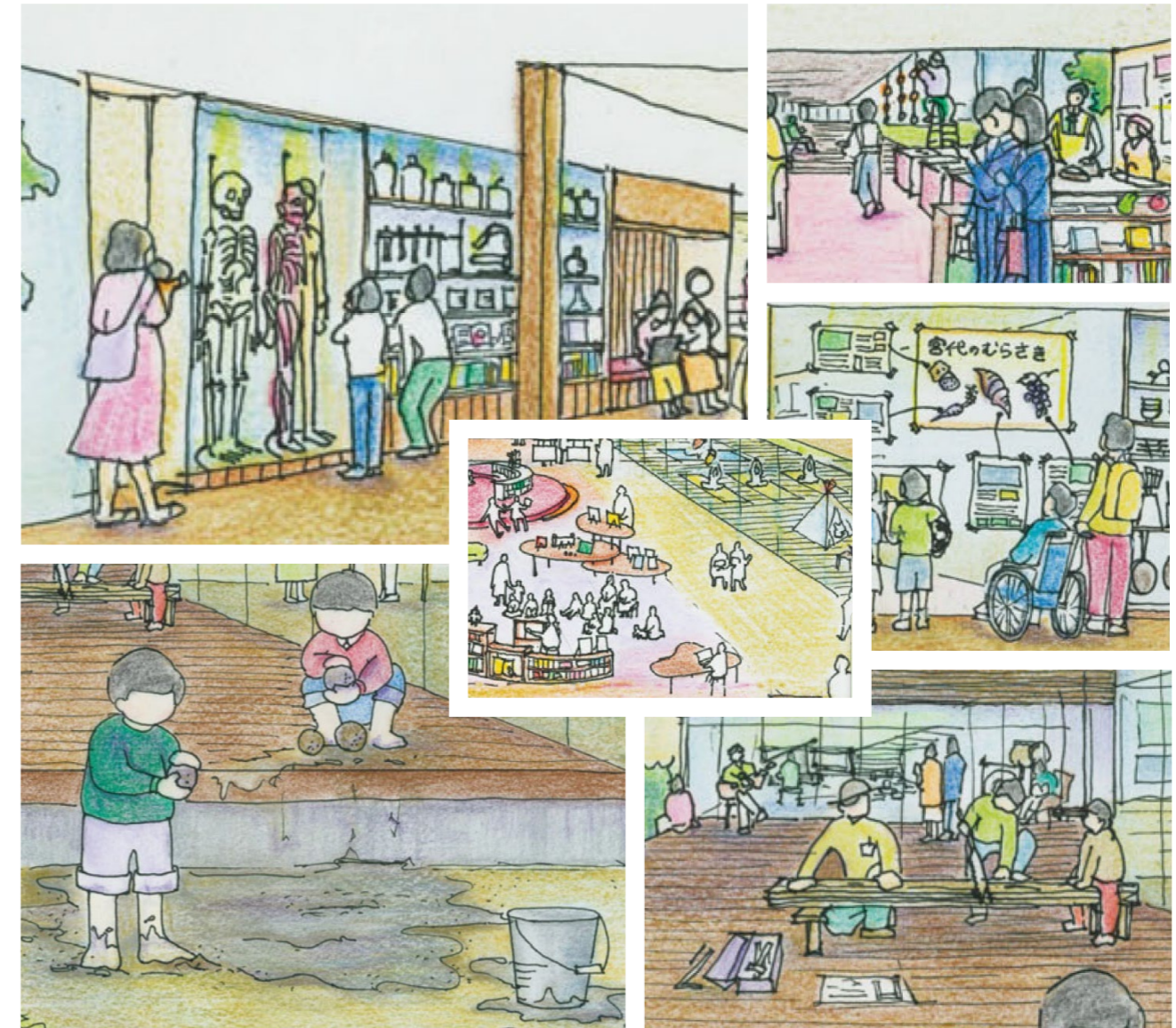
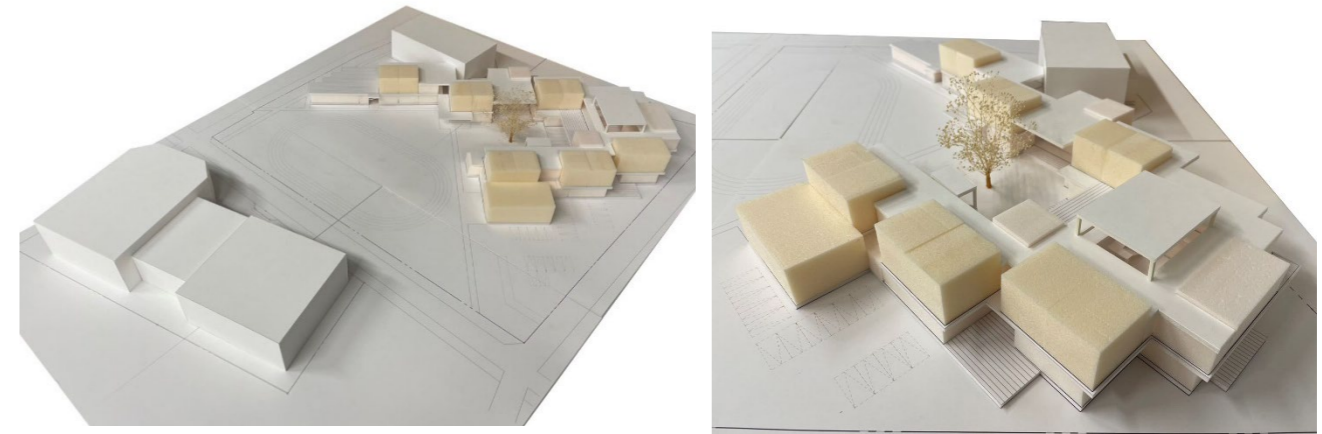
ヒアリング・ワークショップ結果より

基本理念の親和性	○	△	○
共有のしやすさ	○	△	◎

■ 小学校 ■ 地域施設 ■ 共有部



こちらの資料は検討段階のものであり、今後内容が変更する可能性があります。また、検討委員会用資料のため、現時点での外部への露出はお控えいただくと幸いです。



3. 今後の進め方

■ 3-1. 事業スケジュール

- ・令和6年度 基本設計・実施設計
- ・令和7年度 解体・建築
- ・令和8年度 解体・建築
- ・令和9年度 須賀小学校地域拠点施設 開校・開設

■ 3-2. 基本設計に向けての課題

- ・共有室の整理
- ・共用部面積の合理化(面積削減)
- ・防災機能の検討
- ・中学校とのつながり
- ・地域コミュニティセンター開設までの流れ

4. 概算工事費